

こんな活動をしています

こだいら市民提言の会

一般的の市民が“まちづくり”を行ったらどうなるのだろう…。そんなワクワクすることを考えている「こだいら市民提言の会」。普段どんな活動をしているのか。代表の堀内さんに伺いました。

2004年に行われた「まちづくり会議」ワークショップに参加したメンバーから生まれた「こだいら市民提言の会」。市に提出した提言書の評価は高かったのにもかかわらず、反映されない状況でした。その後、様々な市民活動が予算がないと見送られてしまう現状に、ならば市の財政を見直そう！と勉強会を開催。その成果として2009年に『小平市民財政白書』を発行し、2011年にはコミュニティバスに関する調査と分析をまとめた『コミバスは生活バス－こだいら市民のコミバス白書－』を発行しました。そして、現在は『小平市民財政白書』の最新版の作成を目標に活動を行っています。

この日も小平市民学習奨励学級「限られた予算で住みよいまちづくり」の第2回として、小平市の特徴を知り、歳出を見直すことで問題点を探りました。参加したメンバーの高岡さんは、やさしく学べる講座に「知れば知るほど、興味がわく」と笑顔で話します。奨励学級は2013年1月19日(土)、2月16日(土)にも開催の予定です。ご興味のある方は下記連絡先まで、お問合せください。



会の中心メンバー：右から高岡日出子さん、堀内通成さん、古家裕美さん

DATA

活動日 ●毎月第1、3土曜日 10:00～12:00

活動場所 ●小平市美園地域センター

参加費 ●会員1,200円、賛助会員1回100円

会員数 ●15名

連絡先 ●090-9675-6855、FAX: 050-3156-3854 (古家)

E-mail: kodaira-teigen@aglaiac.jp

朗読小平教室ひびき

元気村の廊下を通ると、心が引き締まるような声が聞こえてきました。あすぴあ会議室で熱心に練習を続ける朗読小平教室ひびきの方々でした。事務局の坂本さんと会員の鍵田さんにお話を伺いました。



吉田美智子先生（上）とひびきのみなさん。休憩なしの猛練習でした



会員には現職も含めて先生が多くいます。25年くらい前、鈴木小学校で表現することの研究が行われ、「先生方が子どもたちに正しい日本語の音声と言葉で教える」ことを重視していた山内雅人先生に教えを乞い、以来、市内の先生方が集まって勉強を続けてきました。山内先生が亡くなられた後は、吉田美智子先生（放送表現教育センター）に指導していただいている。「メリハリをつけて」「一息で」「〇〇の音をはっきり出して」「いまのはとってもよかった」…と、吉田先生は会員一人ひとりに実に丁寧に指摘をします。

朗読教室で学んだことは、小学校の子どもたちへの読み聞かせに活かしている方が多くいます。「しーんとなって耳を傾け、やがて子どもたちの顔に穏やかさが出てきます」と坂本さんは話しました。朗読の楽しさはどこにあるのかと尋ねると、「読み深めることができます。声に出すことできょうが見えてきた時に自分の声が変わります。その瞬間に朗読の楽しさを感じます」と坂本さん。鍵田さんは、「きちんと理解して読むことで、自分の心も深められます」と答えました。これが、山内先生が提唱したドラマチッククリーディングの楽しさでもあり、大切なこともあります。自分たちが感動したものを選んで演目とするので、発表会には予想以上の来場者の反応があり、それを励みに練習を続けています、というお話をでした。

【第5回 朗読小平教室ひびき 発表会】
2013年1月19日(土)午後1時30分開演
小平市中央公民館 2階ホール
入場無料

DATA

活動日 ●毎月第2、4土曜日

活動場所 ●市内公民館、小平元気村おがわ東、小平第六小学校など

会員数 ●12名

連絡先 ●042-385-0251 (尾上)

Vol.
6

あすぴあ登録団体中、取材希望のあった団体を訪ねて活動を紹介します。取材希望の団体は、あすぴあまでご連絡下さい。

ちゃいあーと (NPO法人こども未来研究所)

「ちゃいあーと」はNPO法人子ども未来研究所の中のアートワークセラピー教室のひとつです。主宰者の玉掛由美子さんに伺いました。（玉掛さんは竹柴恵理さんと一緒に教室を企画・運営しています。他に数人のサポーターがいます。）

月1回、会場を変えて「ちゃいあーと」は開かれます。対象は小学生。取材日は、宇宙にある想像上の星で生活している生きものをつくりました。落ち葉、小枝、植物、色紙、ワタ、テープ、雑誌の切り抜きなどを材料にして、台紙に思い思いに貼っていきます。子どもも大人も自分の世界に浸りきっているのでしーんと静かです。50分ほどして作品が出来上がりました。「変ないきもの図鑑」というタイトルの大作を仕上げたお子さんもいました。最後に円陣に坐って各自が創った生きものの暮らしぶりについて説明をしました。スラスラと言えなくとも大丈夫。誰にも否定されないので安心です。参加者はみんな、作品をつくったという達成感と気持ちを表わしたという満足感でいいお顔をしていました。

玉掛さんはグラフィックデザイナーとして仕事をしていましたが、体調をくずしアートセラピーに出会って回復したお話をしてくださいました。子どもの時からアートを体験していると自分が好きになっていき、自分の人生を自分で創造する力を身につけるようになる、ということでした。



お気に入りの生きもの

DATA

◎月1回の情報はホームページで見ることができます

<http://www.cof.or.jp/page/chaiart.html>

参加料金／1ヶ月 ●1回 子ども一人につき
正会員 1,000円 非会員 2,000円

開催報告

第3回市民活動交流サロン なってよかつたNPO法人

開催日時：9月30日(日) 14時～16時

●ゲストスピーカー

NPO法人ぶるーべりー愛犬ふあみりー協会
NPO法人 小平シニアネットクラブ
NPO法人 グリーンコミュニティ



佐藤英樹さん
(NPO法人小平シニアネットクラブ)



高橋良紀さん
(NPO法人ぶるーべりー愛犬ふあみりー協会)



佐々木邦夫さん
(NPO法人ぶるーべりー愛犬ふあみりー協会)

法人格をとつてもないNPOの方々にお集まりいただきました。

NPO法人ぶるーべりー愛犬ふあみりー協会の佐々木さんは、法人格をとっても助成金を認めてもらえないで、会の活動状況がよくなったわけではないと話しました。でも、素晴らしい仲間との出会いがあり、仲間の協力があればこそ活動することができると話しました。佐々木さんの団体はセラピードッグの活動の他に、市内の公園に犬同伴で入ることができるようにと運動をしてきました。「犬の落し物クリーン大作戦」という普及啓発活動を通じて、市内にある500m以上の公園119ヶ所に犬と一緒に飼い主が入ることが可能になりました。さらに社会的な信用を得るために平成23年に法人格をとりました。

NPO法人小平シニアネットクラブの佐藤さんは、ITに詳しいシニアが社会の動きから取り残されることがないようにとパソコン技術を教える会をつくった、と会の目的を述べました。会員は孫とブログをし、子とスカイプで連絡をし、小学校のパソコンサポートで社会貢献活動をしています。その他に楽しみたい人向けに種々のクラブ活動もあります。法人格取得後は公の信用が得られ、団体としてやりたいことが具体化し活発化した、ということでした。一方、都への書類の提出や会計処理の問題が出てきた、と話しました。

NPO法人グリーンコミュニティの高橋さんは、法人格をとつばかりの会の主旨を次のように言いました。地球温暖化に関する環境保全と新エネルギーの開発、知的障がい者の雇用をめざすこと。続けて、行政とのネットワークの持ち方や理解者、賛同者の集め方を考えていくと話しました。



会場からは質問が活発になりました